



陸奥の酔ひ
五

13
3256



2256

13
3256



女のなま^いせぬりせけ^え衣^え級も^え冠^えもい
 小色^いあき。引^ひ添^そふ人もま^まづ^づと^とうや
 美人のんそ^そくれさ^さ好^{この}むも^む皆^{みな}此^{この}ら^らあ
 ぞーいづ^いき^きん^んて^てくれさ^さこの^{この}ま^まさ^さる^る人^人
 何^{なに}〜ド。ま^まが^が云^いは^はな^なか^かぢ^ぢる^るあ^あハ^ハ人^人は^は
 指^{ゆび}の^のつ^つち^ちれ^れか^かけ^けま^まを^をん^んて^てくれ^れこの^{この}志^しあ

片断

十一
二六

2-2



そのあし。さうぞとて長飲ひしりひさ
 おもやも何らば。八段もんの生かて
 まりハニ段。慈暮めてや免。八段とぐ記
 の法がくづるハ。四段とぐこ。うらな少く
 すまじやうも。志車中居が附合て。と
 うくさこでんハ。履達の車。トヤ。達者小
 あうて可愛ら。いぢどく。さういふまで
 ろ。おしひあし。身がらり者た。さう

一ん。こんどの新あまうひこのと。そや
 してかけば。何までもト小あうど。何の
 り。こもぬい法。伸ふまで。さんの字。付
 ての。す。うららが。すとのい。やふ。ト略。と
 る。とひ。こ。ぐらも。これ。あ。曲。家の。の。ん。て
 ら。を。な。り。又。義。を。ま。ま。ゆ。さ。う。さ。る。あ
 も。ち。す。と。乃。り。れ。長。地。系。る。ゆ。れ。る。物
 折。ふ。あ。う。て。の。一。口。ニ。口。ハ。一。與。す。も。ぬ。る。く

くせとん。音さくあはんてくれハ。鉛
細工の七ツ乃具とたし。琴深あるの
んてくれハ。けし袋の凡入と放さん
おろはんてくれハ。山とつみまよとえ小
けけ。中うれとてくれハ。朝日紅日赤と
杯ぐよ。医心何のこやくハ。疾物の甚生
さおし。是はんてくれ。人相
ずきぬあハ。此節とてやめて是

とんてくれとん。仕家れんてくれは
庄安小立。遊翰のうてくれハ。庭小なる
薦僧新地何より成。細細と水馬
系。祇道所よかけ。漢学者のんてく
とハ。掛物の漢字とよみ。和学者はて
くれハ。懸書れかおほひととん。身よ
こハ。撥帛紗とよみ。てんてくれは
担音作ハ。三弦のうらに。落書して

是これははんてくる色とんに。相あ言い師しのはま組
とんせらもも。能の活くわ作さくのおおこ強くわも
いづももんてくれともおも色はんは其その外ほかをおも
おのる人ハは定じやう性じやうの肉陳ちん切きやう子こならどともおま
らして。是ともいてくる色の一いつとん。さ
きも見みる色の中小こ苗なほ世せハは首しうと
吳ご形かたり。茶屋やの亭主しゆはは茶ちやの湯ののこ
のの女おんな房ぼうが生花なはな好この屋や乃の隠ひん拵ぎうが

例れい年ねんおの高たかれ。説法はふす小性じやうくまでい
づとようさ中一いつとん。似にくち方かたはんてられの
名な利り小こ落おちべー。又また所ところの小息いき子こお
どろかかつりてと品しんおの藝ぎ儀ぎのやうり。ただ
下げ他たおはうらとと瞬しんとん得とくく。藝也やハ
きんとうともんとたらかと。所ところ織おりハはん
いでも新金きん物ものの華れ勝さげともおまん
百ひゃくあくつごの烟草くさとと標ひょう白はくして流石いし



ハ切込の方でまゆきをとりけぬまじ
 さのこむも男のめ瞬念をひぬ
 一福う。さうさ。かうせん。のりりり
 とやほふまも名深小形ると。うう
 だの踏この。せりぬり。此星志り不
 湯一ても東辺の信屋ハ不借し。人
 めいす。先ともうり。とかく河東
 孫住居と。う。やみ。即處と。まらう。ひて

さし。し。里小教。ま。を。繩。も。名。意。地。所。
 の。小。岩。相。見。也。も。い。法。一。う。名。深。の。葉。を。
 知。者。の。枝。小。掛。た。ふ。さ。れ。ま。こ。思。ひ。付。こ。
 名。付。意。屋。も。さ。の。あ。ま。さ。こ。細。え。も。高。分。
 ハ。か。さ。し。一。語。り。れ。ど。だ。ん。く。と。火。く。ま。り。
 た。の。こ。小。お。り。ふ。あ。と。り。よ。ハ。回。友。此。踏。遊。
 岸。ち。つ。と。の。石。小。安。も。た。み。さ。し。り。持。さ。
 う。こ。女。房。も。日。夜。射。着。の。女。史。喧。嘩。

はひふハ何何目とやうに俺住居とあ
そのあり。その振ね罪やうくて配所の
月をさいでハあるまい。

筆どとりてハ物かんととこおの青樓
街と通りてはまてん中とたまふとや
誠小納原の余ふハ余おふかまびねさ
あさしひ石垣はたつてその大いね強

二階とくに輝一川端の水樓は教
の箱お焼とて思ふとこふ奉かこふ
物高似舞あり。踊りまはるありた
くあま。あまあり。あま
ときつてうとハお妓あせま拭を祿
ちて口之強と何らふ。志車ハ園は
持くああさ。中居ハ砂とあまき
不ひんれおとちありありの志ま。迎漢は

紅圍ベニイロのたのひももたのきたのき愛いとふ人ひと活なごの
窮きゆう居いにに向むかひひ之の勢せい西さい流りゅうの心こころををひひふふをを
一い之のももままううせせかかささききハハははおお夜よららしして
の病やまりりおおりりろろくくぬぬ死し金かねととけけかかふふ
折をりりややひひつつ人ひと早はや竟きりききよよ金かねハハららぬぬ死し
ののつつよよ金かねとと生なま金かねハハああいいかかししくく笑わらふふ祝いわ又また
ハ唯ただの悟さと海うみはは命いのちまま死しの境さかいハハ何なにももあありり
捨すてびびふふもも致いた目めのけけぬぬりり何なにももびび悟さとままれれええ



ままくく捨すてびび相あああ一いっののままけけぬぬまま捨すてびび奴やつ
ののままううききああそそびびいいぬぬりりくくののままああききををあ
そそびびかかななどどハハいいまま一いっめめ場ばへへ一いっ何なにももハハ淋しみし
らら表うぬぬどどちちとと消くええをを捨すてびびでで中なかららああらら
ハハちちとと瞬まかかつつててややししななききどどららああらら一いっ金かねと
決けままぬぬららままぬぬららかかししてて決けままぬぬららややかからら
ももそそををままととはは黒くろ白しろぬぬちちががひひななききしし生なま金かね
ももああららままはは決けままぬぬららのの死し金かね決けままぬぬららハハ

舞臺

かりあかぬ場もある。まことある人
は是までたんとはくろみと金金の利点で
今生金をはくろみ振く妙こといへるも
ぞうし彼人等吾でちと神楽喜の
里草よてらびく子たぐひ。ふかけく
きおしきさびし

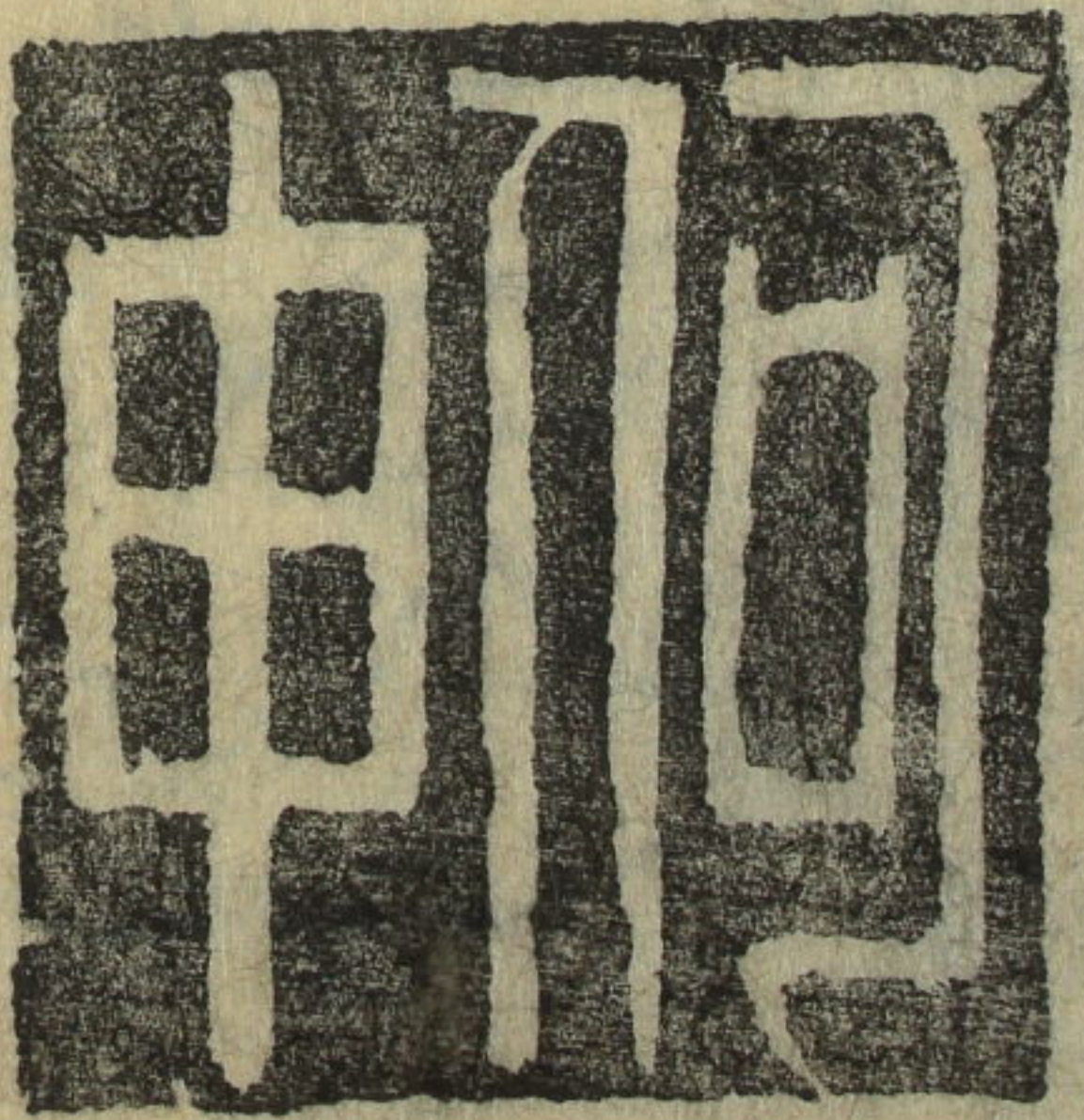
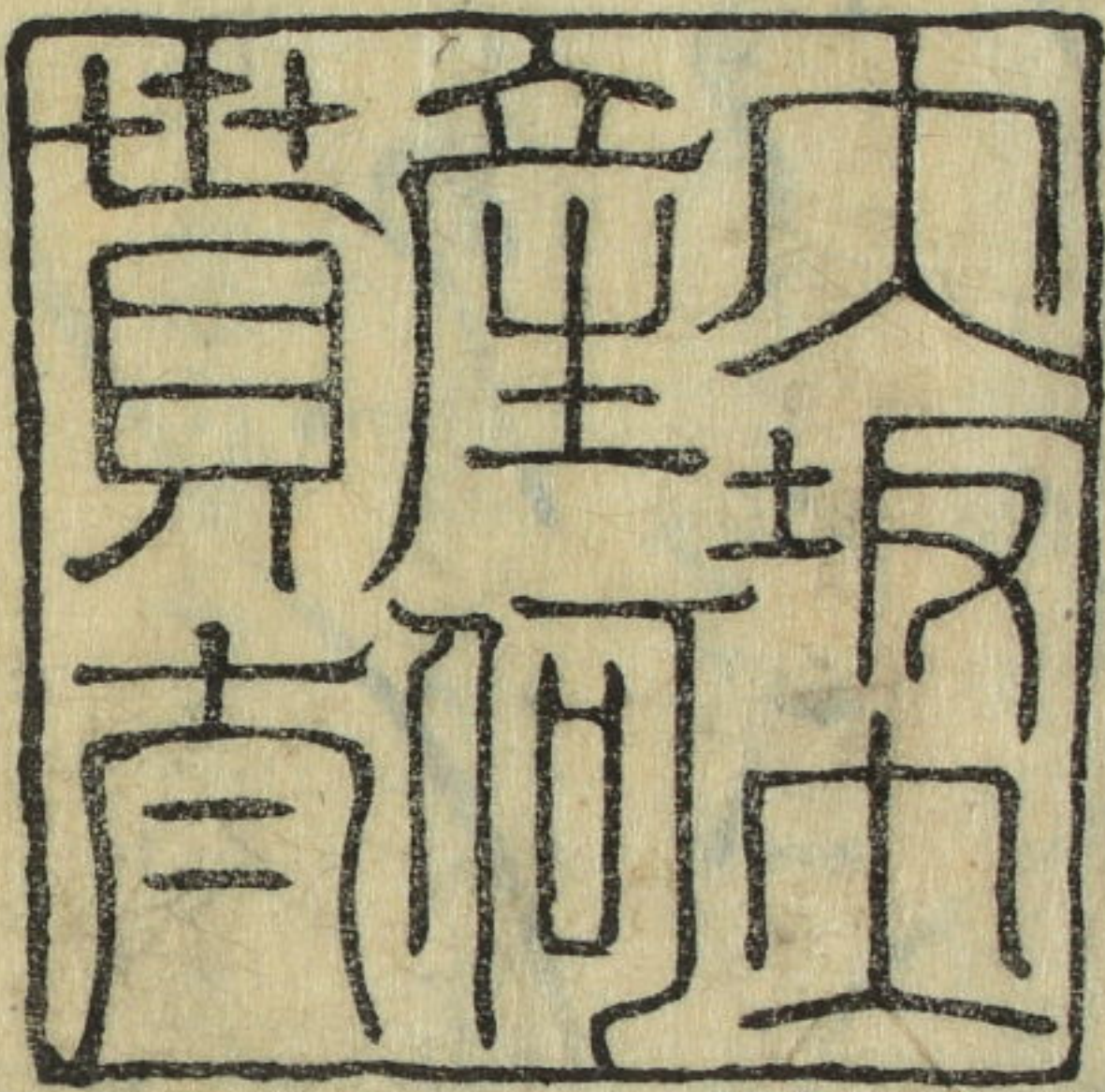
總て瞬といふものハあやなをいとするが瞬

あもあらしはどまが。茶屋といふおが。むとや
とらげ人晴とある相也。茶屋おひよ瞬のえ
有才一瞬といふあはらおれしして何半
少も私ぬく。人のとまんとらとあはひ。男
女ふくまらば親父も丁稚おひよ。さうすいと
りよが瞬。なんや妙郎おまとうましても。かん
しんの親父おすのせ。秘を瞬でけ。おひ
んがやらうらぬをうりでも。及おそむけてハ。親

父がさとうぬちゅうめい忠孝ハ勿論もちろん世法せやうの乃なりとすを
 不ふがせい醉さいの奥おくこそこの醉さいとまゐぶまゐ付つはは百ひゃく法はう
 此こゝ内うちおこりておこ仏ぶつ法はうのの色いろをを傳たづ道どう有あり神かみ
 秘ひああももここもも又また半はんももりり全ぜん柳やなぎハハんんどどりり梅うめハ
 ととここららののささぬぬくく。めめららハハ餅もちをを医い者しやハハい
 ちちやや。ここのの般ぱんそそききくくのの赤あか葉はををままりり情なさけのの乃なりも
 ううととかかゞゞばば茶ちや屋やぐぐるるひひももよよいいかかゞゞんんハハ醉さい形かたちなり
 急いそぎぎでで身みををううりりぞぞくとと掲ひらここららてて奥おくにに参まゐり



浪乘一耳鳥の寫



我れ川を必あはれど。其ふあはる
えづらふもあはれど。且ちうめふあはるの川。
地獄ははうづら。それいそふをなし。
世の附合い。世の川。掬ふ鳥の川。
肉のうすい。年々の川。水邊の
似く水邊。かゝる。あふ。せ。化あしひ浪なみよする
川をあれ。瞬く川。いふ。あはる。川。いふ。

あゝいふもふもあもなげれどせし
決志ぬめあふしあぢ世の人を
ふふ志めしあふしあんち。これま
祝く人々を命ぎへし福もあくとまる
人を昔の瞬とかるべし。はもあふ
思わくゆけはあせをかすりしひ
川ぞらハハいしや。たぬれぶかあす

海々とのあ春はも久しきものきく
もまうされむその趣とまうがし
さるやしよ。艶好法師の徒然つれづれよ
かろひ。今極のうと油をししかき
さうし川の名とまうくおきまう。
がふししし名の下むちししかき。娼かや
娼かやのうまあそらしししし。

ちまうくちまれの男癖のぐらあひ
 一邨の肝こんどりの性根なり
 と。非我いふ。
 あめあさうりひらの妻

早引 畫引節用集 懐中小本 真字附 全

世間二節用集較多むとらふも器財
 人倫之本言語さぞかりけれども門邨
 の内云流るる繁く紙較とて千枚を千枚
 余もあな字を探る其途一急用の間
 合と此節用ハ日開五枚文字名録あり
 門邨分儀又其字を附きやうの片うの
 畫を引べしと人ハ体の字をいふ
 ヤスム合して六畫とある言語門や邨
 六畫あり又麴の字と引くハ又六畫
 とある五枚門邨 五畫ありつゝも
 け例より一紙較し録及ぶと引字即席
 に出るは且字と増とすやびあし、

茶道早合点 師直不入は持前 全二冊

茶湯をまろさう人け本とてんは茶湯と
 師直ちりして多分持て教るやうに委
 繪圖を其用ゆる道具の名よりその
 如不若悪客方亭と方の奥儀を
 悉く記し秘学の御方とて早く
 合点の初やうに茶道のつとを委集む
 和漢袖玉年代記 全
 李朝の神代唐土三皇又皇とて今代
 と日本國中神代佛國の濫觴公卿諸臣
 諸祖用山智者名士の来讓ゆ家武道の
 治世経官を載を其外年々付く不思議
 等りのさし集む年号年歴を標めり
 早く考へ懐中して人家の重宝とす

新增用文筆道大全 全

け度新板は用文筆の妙の清き様目へ入用
の文章の筆おのほ横文字に去来既状も案
書上にもおむくの文章も商人目く名刺の文章
上つる方、板巻状の内書下書も亦去来常用
を渡りは承るけとよりて去面と去の遠國御合入
組するむじきりの文章も即座に書きて其の書
被書万字筆日本國を形法に書くは御書
万對名書法士農工商其類書画詩歌連
洲香蹴鞠茶生花之類故実古今名書
禁中御門御所火名方沢故実希詞はるひ
尚流儀方百ヶ条万種物抄物扱入るは儀も
是(易く繪圖へ引指南と其外目へ入用
の筆を承るるのども世よりゆめゆめ
集むは減る筆も大金の書なり

獨算鑑 諸書堂早筆用 全

算の妙見する用早用之田地坪割并の法
算用所見其外ははる方種物法を
いらるははる洋の算其の妙い算に去と
算とむらひるは算の妙い算とせり
諸書堂早筆用之算鑑

品物 世事談 全五冊

凡天地用き始り其間ありゆる歳時人
衣服飲食は植為物産能多き
門部をさうら幸物起りたりの果歴
いらるにて是く記を以書を以て凡世
の事物知れ其にありはる書なり
大坂書林 心齋橋南之室寺町 高橋平助

大和名所番繪 竹原春朝番画 全七冊 新刻出来

竹原春朝番画 全七冊 新刻出来

和泉名所圖繪 竹原春朝番画 全四冊 新刻出来

竹原春朝番画 全四冊 新刻出来

河内名所番繪 右二冊 全六冊 近刻

右二冊 全六冊 近刻

即席 文章書形 宮南耕秋書 全一冊

宮南耕秋書 全一冊

此用文章の秘伝の人の心を承るる
けかを承る書なり人上逸録なり

新板 獨算鑑 小本 全一冊

小本 全一冊

寛政九丁巳正月吉具

大坂書林

攝津國 住吉名勝圖會 浪華玉山画 全五冊 出来

浪華玉山画 全五冊 出来

畫史會要 大國春上筆 狩野雪舟漢画 全六冊

大國春上筆 狩野雪舟漢画 全六冊

寛政九己年 新板 繪本 一冊物 三冊物

一冊物 三冊物

算学重宝記 全一冊

全一冊

心齋橋南之室寺町

塩屋平助

